

企業と NGO の連携促進のための勉強会(第 4 回)

ビジネススキルを活かすプロボノ

開催概要

- 日 時 2018 年 1 月 18 日 (木) 19:00~20:45
- 会 場 YWCA ビル 2F (201・202)
- 対象者 企業の社会貢献担当者及び経営者、
NGO 関係者、学生や研究者など、本テーマに関心のある方
- 定 員 20 名 (先着順)
- 参加費 1,000 円 (センター正会員・賛助会員 B は 500 円)
- 主催 認定 NPO 法人名古屋センター

ゲスト紹介



おおすが けいこ
大須賀 恵子 氏

特定非営利活動法人中部プロボノセンター事務局長

(株)デンソー総務部社会貢献推進室で約 15 年間社員のボランティア活動の推進など、社会貢献活動に携わり、退社後 2015 年から現職にてプロボノ活動の推進に当たる。

聞き手



おおや まさひと
大屋 正人 氏

(特活)中部プロボノセンターの「2017 年度プロボノ 2017in 愛知」に参加し、現在プロボノメンバーの一人として名古屋 NGO センターを支援。(株)デンソー社員。

はじめに

大屋：現在、愛知県主催の2017年のプロボノ事業に参加しています。プロボノの一環として、今回の勉強会の主催である名古屋 NGO センターを支援しています。こちらのプロボノでは、「企業と NGO の連携」という事業に対し支援を行っています。そこで、今回の勉強会では「プロボノ」をテーマに設定しました。本業は、株式会社デンソーに勤めていて、エアコンの設計をしています。本日はよろしくお願いいたします。

大須賀：特定非営利活動法人中部プロボノセンターで事務局長をしています。以前は、大屋さんと同じ株式会社デンソーで15年間社会貢献の仕事に携わってきました。中部プロボノセンターには2015年から関わっており、現在は中部プロボノセンターで活動をしています。プロボノというのがまだ市民権を得ていない言葉だと思うので、プロボノがどういうものかを知っていただいて、それが広まっていくことを期待しています。今日は、プロボノとしての企業人と NGO・NPO との連携について話したいと思います。

現代社会の抱える課題

大須賀：まず初めに、いま社会で一体何が起きていて、どうしてプロボノが必要となっているかという事を、少し皆さんと考えたいと思います。参加者の皆さんも、自分の仕事があり、目の前の課題について取り組んでいると思うのですが、例えば20年後のことを考えてみてください。今の私たちの社会はどのようなになっているのでしょうか。

人口はどんどん減っていきだろろうといわれています。グラフ(図1)を見ると、2020年では1億人以上いる人口が、2060年になると9000万人を切る事が予想されます。さらに、人口の中の年齢構成をみると、働く人が半分以下で、支えられる人が増えてくる事が考えられます。

人口は減少していくという一方で、橋やトンネルといったハード面にも今後支障をきたしていくと考えます。グラフ(図2)を見ると、建設後50年が経過した橋やトンネルといったものが、20年後には50%を超えてきます。

こういったグラフを見ると、私たちは「持続可能な社会」を作り上げる必要があるかと思えます。持続可能な社会を作っていくために、現在は企業がCSR(Corporate Social Responsibility=企業の社会的責任)やSDGs(Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)に取り組んでいるわけですが、やはり企業にだけ任せるのではなく、市民の私たちも参加して持続可能な社会を作り上げていかなければならないのではないのでしょうか。

そしてまた、こういった社会の問題を、国や行政に任せているだけでは限界が出てくると思えます。行政の公平な視点からの施策では、どうしてもそこからこぼれ落ちる人が出てきます。では、家族で支えあえば良いのではないかと思われそうですが、家族にも仕事があり、限界があると思えます。そこで最終的には、行政や家族だけではなく、市民が支え合い、力を合わせて課題に取り組む社会になってくるのだらうと思えます。

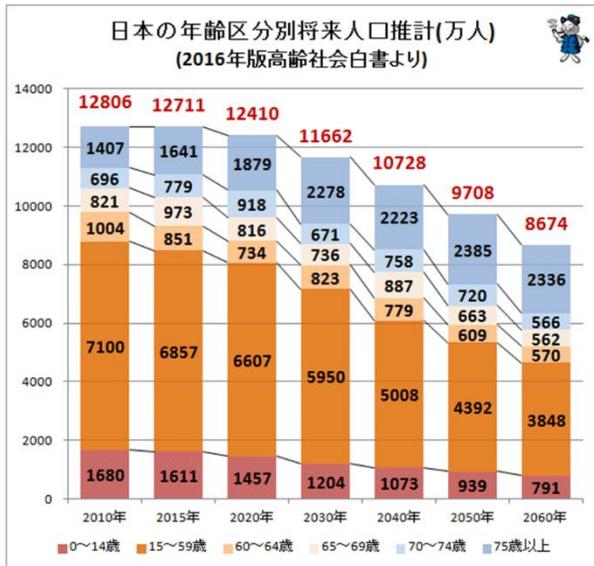


図 1

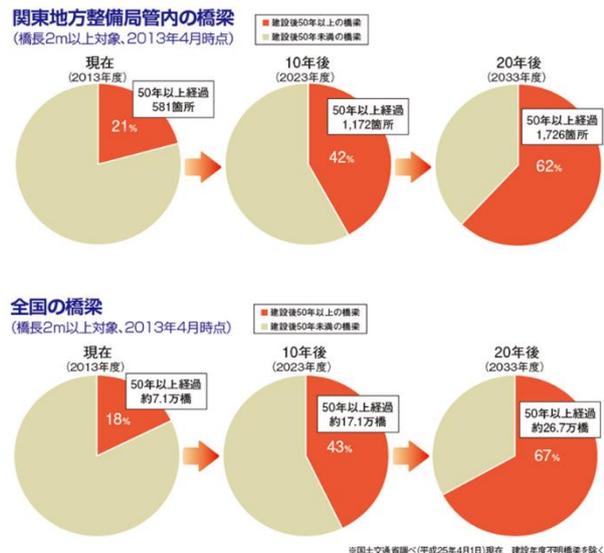


図 2

プロボノとは

大須賀: NPO はどんな団体かという、社会の課題について敏感に感じ取って、自分たちが何とかしなければという志を持って活動している人たちの集まりだといえると思います。しかし、社会課題を解決しようとしているNPOにも悩みが存在し、中部プロボノセンターではその悩みを5つに分けています。「業務改善」、「事業改革」、「広報戦略」、「組織拡大」、「事業戦略」と分類しており、この5つの悩みに対して中部プロボノセンターではプロボノを派遣しています。

プロボノとは、社会人が自らの専門知識や技能を生かして参加するという社会貢献で、ラテン語の Pro bono publico(公益善のために)からとったものです。プロのボランティアという意味ではありません。例えば、弁護士や会計士の人が自分の仕事以外の時間で、団体などの相談に無料で乗ったことがプロボノの始まりとされています。ボランティアとの違いは、特に業務上で得た知識あるいはノウハウを生かしNPO 団体が直面している組織課題の解決に貢献することです。

具体的な当センターの活動内容を述べると、中部プロボノセンター主催の事業として、年に一回企業から社員を派遣していただき、研修を行い、プロボノとしてNPO に派遣することをしています。もう一つ、本年は愛知県主催のプロボノ事業を行っています。このように、期間を決めてプロボノとプロボノを希望する団体とのマッチングを行い支援する事が取り組みの中心です。現在は組織運営や業務遂行がうまくいかないと悩んでいるNPO 団体に支援を行っています。基本的には、4人から5人のプロボノチームで支援を行います。理由としては、5人いるとお互いの得意不得意を補完しあえるため、NPO 側の困りごとに対応できると考えているからです。団体が抱える沢山の問題について意見交換し、一緒に課題に変えて活動していきます。自分にそんなことができるかなと心配になる人も多いと思いますが、実は取り組んでみると結構できることがあります。業務上で日頃から行っている計画の立て方だったり、ToDo リストの管理であったり、PDCA のサイクルを回すことなどが団体にとっては役立つことが多いです。

プロボノ活動で一番大切なのは、まずはお互いコミュニケーションをとって知ることからスタートすることだと考えています。社会人は会社の理念や枠で考えていることが多いけれど、NPOの人たちは社会の枠で考えているので、この違いを必ず話し合いをして埋めていく必要があります。従って、NPO や社会人、学生、どの立場にとっても価値観の違いを理解してお互いに共感することからスタートすることが大切だと感じます。

プロボノ活動を通して、今まで気づかなかった社会の問題点に気づくかもしれません。また、NPOの人たちとかわかることで自分の価値観が少し変化することもあるかと思います。さらに活動を通して、コミュニケーション能力がアップした、そんな声も聴いています。



質疑応答①

大屋 : 大須賀さんに「プロボノとは何か」について話していただきましたが、これについて質問のある方はいますか？

参加者 : プロボノに参加した後の流れを教えてください。

大須賀 : 愛知県主催のプロボノ事業だと、期間が決まっています。7月頃からプロボノの募集が始まり、9月10月で研修をします。研修講師からNPOとの付き合い方や、3C分析やSWOT分析など、課題分析の手法などを2日間受けてもらいます。その次にプロボノを派遣するNPOを募集します。プロボノメンバーとNPOのマッチング後は、合同研修を行い、団体の強みや弱みなど課題を一緒に分析して、実際の支援に2か月半ほど入ります。

大屋 : 私が今行っている名古屋NGOセンターへの支援例でいうと、ひと月に2、3回、週末の約半日の時間を費やします。あとは、ネット上で連絡しながら進めています。

大須賀 : プロボノは支援期間が決められているので、社会人も取り組みやすく、支援をしたという実感を感じられるのだと思います。

参加者 : 今までの話の中だと、プロボノは個人が参加するというイメージですが、企業として行う社会貢献と、プロボノの接点があれば教えてください。

大須賀 : 今年は2つの企業からプロボノへ社員を派遣してもらっています。その狙いの一つとして、社員の人材育成が挙げられると思います。会社の中だけではなく視野を広げ知識を得る、さらに得たものを会社の業務につなげる、そういった形で人材育成にも少し役立つことはあります。あるいは、企業がプロボノ活動をすることによって、企業側の社会に対する姿勢というものをアピールできることもあると思います。社員がプロボノをやることによって会社の価値観が結果的に上がる、そういった形で企業も取り組んでくれるといいと思います。

大屋 : プロボノにはいろんな形があると思います。(株)デンソーでは、会社独自にプロボノの支援事

業を行っていて、刈谷市の周りの様々なボランティアに対して支援を行っています。

過去のプロボノの具体例

大屋：それではここから、実際のプロボノで行った支援について具体例を話していただきます。

大須賀：成功例として、名古屋で精神疾患・精神障害の課題を持った方などの支援をしている団体の「便利屋事業」を話したいと思います。こちらの団体は新規事業として「便利屋事業」を立ち上げたのですが、忙しくて用具の管理や交換に手が行き届いておらず、また、依頼を受けた際の進め方にあまりきまりがありませんでした。そこで、プロボノの人たちは、利用者でも管理・交換を進められるような表や、依頼があった時の業務進行表を作成し、掲示しました。このように、作業を見える化するということは、企業で働く人たちにとっては日々の業務で培っているものです。それがその団体では役立ち、今でも使っているそうです。このケースは、団体の求めていることや困りごとと、プロボノのできることがうまくマッチングした事例だと思います。また、この事例がうまくいったもう一つの理由として、プロボノと団体のコミュニケーションがうまく取れて、お互いが納得して協力した形だったからという事が言えます。逆に、プロボノ支援の結果がうまくいかなかったパターンとしては、団体とのコミュニケーションの取り方に問題があることが多いです。たとえば、団体の中でも団体責任者と職員の考え方が異なっている場合、一方に合意が取れても、もう一方には提案が通らず、支援がストップしてしまうこともありました。団体の誰と話すかもキポイントです。



質疑応答②

大屋：ありがとうございます。今具体例を挙げてもらいましたが、何か質問のある方はいますか。

参加者：具体的にプロボノを始めたいと思ったときに、どのように始めたらいいですか。中部プロボノセンターに何か登録するのでしょうか。

大須賀：今のところ、オープンに登録する形にはなっていません。プロボノの事業があるその都度、事業に合った形で募集しています。中部プロボノセンターから情報を出して、それに対して企業や一般の人が手を挙げる形です。

参加者：早速プロボノに参加したい人は、時機を見て、発信されている情報や募集に対してアンテナを張っていた方がいいということでしょうか。

大須賀：本来はいつでも募集や登録を受け付ける形にしたいが、現在はそういう形で進めており、HPで

募集をかけるようにしています。近年、愛知県ではかなりプロボノ事業に力を入れているので、各地域のボランティアセンター等でもプロボノを派遣できるようにしたいと考えています。

参加者：プロボノのチラシを見ても、最初はとっつきにくいし、自分にこんなことができるのだろうかと思いました。でも縁があって参加してみると、自分が仕事の中で得た知識が役立つことがわかりました。今私は、刈谷市のボランティアセンターとして、プロボノと団体を結びつける役割を担えないかという事を考えています。そして、まだまだプロボノの認知がされていないので、認知度を高める役割も担えたらと思っています。いろんな方たちにプロボノに参加していただければ、それがその人たちにとって良い経験になると思っています。



参加者：プロボノの募集に対して、アンテナを常に張り続けるのは大変だと思います。メルマガなどで情報を発信してもらえると、コンタクトを取りやすくなると思います。

大須賀：プロボノもまだまだ認知度が足りていないところがありますね。今回、いろいろな方がプロボノを検討していることがわかりました。また、様々な意見をいただいて、中部プロボノセンターの必要なこともわかりました。ありがとうございました。

大屋：大須賀さん、本日はありがとうございました。

ビジネススキルを活かすプロボノ

2018年1/18(木) 19:00~20:45

プロボノとは、社会人が自らの専門知識や技能を生かして参加する社会貢献活動です。ラテン語の「Pro bono publico (公共善のために)」からきています。プロボノもボランティアのひとつで、自分スタイルのボランティアの在り方として注目されています。(特活)中部プロボノセンターでは、社会課題を解決しようとする非営利活動法人(NPO)に対して、社会人のプロボノを派遣しています。NPOの事業活動をいっそう向上させることを通じて社会に貢献することが目的です。活動方法は、数人でチームを作り期間を決めて支援を行うという形です。社会人のプロボノ経験者からは「本業では絶対に経験できない貴重な期間だった」、NPOからは「事業として活動していく重要性を知ることができた」などの声を聞いています。

NPOと企業との連携の仕方にはいろいろな形があると思います。今回の勉強会では、(特活)中部プロボノセンターの大須賀氏をゲストに迎え、NPOにプロボノメンバーを派遣してきた経験の中から、覚えてきたことをお話し頂きます。この機会をお見逃しなく、ぜひ、ご参加ください。



ゲスト ^{おおすか けいこ} 大須賀 恵子 氏

特定非営利活動法人中部プロボノセンター事務局長

(株)デンソー総務部社会貢献推進室で約15年間社員のボランティア活動の推進など、社会貢献活動に携わり、退社後2015年から現職にてプロボノ活動の推進に当たる。



聞き手: ^{おおやま ひと} 大屋 正人氏



- 会 場: YWCAビル 2F (201・202)
(名古屋市中区新栄町2丁目3)
地下鉄「栄」駅 5番出口より徒歩2分
- 参加費: 1,000円
(センター正会員・賛助会員Bは500円)
- 定 員: 20名(先着順/要事前申込)
- 対 象: 企業の社会貢献担当者及び経営者、
NGO関係者、学生や研究者など、本テーマに関心のある方

(特活)中部プロボノセンターの「2017年度プロボノ2017in愛知」に参加し、現在プロボノメンバーの一人として名古屋NGOセンターを支援。(株)デンソー社員。

<申込方法> その1: 名古屋NGOセンターwebサイトよりお申込下さい。 その2: ①名前、②所属、③電話番号を明記の上、E-mail、電話、FAXのいずれかの方法にてお申込下さい。



主催&申込み 認定 NPO 法人名古屋 NGO センター

〒460-0004 名古屋市中区新栄町 2-3 YWCA ビル 7F TEL&FAX: 052-228-8109
E-Mail: info@nangoc.org HP: http://www.nangoc.org/ (開所時間: 火~土 13:00~17:00)

この事業は「JICS NGO 支援事業」「あいちモリコロ基金」より助成を受けて実施しています。